

第3回 一宮駅周辺地区ウォークアブル推進事業に係る対話型説明会 議事概要

1. 日時・場所

2024年11月19日（火）14:00～16:00

一宮市役所本庁舎 11階 1101会議室

2. 出席者

参加者 20名

（アドバイザー）株式会社ワークヴィジョンズ 代表取締役 西村 浩 氏

（ファシリテーター）大日本ダイヤコンサルタント株式会社 森田 紘圭 氏

（事務局：市）一宮市まちづくり部都市計画課

3. 次第

（1）本日の説明会について

（2）8月27日（火）、10月20日（日）に開催された対話型説明会における意見を踏まえた検討結果について

（3）意見交換

4. 議事概要

- ・スライドに沿って検討内容についての説明を行った。
- ・市の検討内容についての意見交換を行った。

5. 主な意見

（参加者）

○銀座通りの整備方針について

- ・広がった空間の活用が決まっていないのに歩道を広げることが先行している。
- ・他市の事例のような歩道の幅は既にあり、街灯や街路樹の位置を工夫すれば十分にスペースは確保できるため、歩道を広げる必要はない。
- ・車道を北に寄せると南側の店舗が車道まで遠くなるため、店舗の意見を聞いたほうがよい。
- ・一宮は車社会であり、時間帯によっては学習塾の送迎の車が多く、それらが停める場所がなくなったことによる渋滞の悪化や周辺の生活道路への流入が懸念される。
- ・多少無理しなければ何も変わらないと思う。現状維持でいいのであれば今の時点で変わっているはず。歩道を広げて何をするかといった意見もあるが、同時進行で考えていくべき。思い切ったことをやってほしい。
- ・ベビーカーを使う人にとって歩道は広い方がいい。今の歩道幅でも歩行者や自転車とのすれ違いは危険である。

○千歳通りの交差方法について

- ・第5案として、今のまま何もしない案を提案する。
- ・周囲の人に話をしても、通行止めについては困るといった意見のほうが大半である。信号を渡ることはそんなに面倒なことか。イベント時には信号があっても人が流れることが立証されている。
- ・例えば、ファミリーマートの上に巨大ビジョンを設置するなど、スクランブル交差点をなくさずに、一宮駅前の名物にするとよい。
- ・一宮駅から東京駅への夜行バスがあるが、千歳通の通行止めをしたら一宮に寄ってくれなくなるのではないか。
- ・公共交通や一般交通に対する交通影響が心配である。社会実験をやって影響を検証してほしい。
- ・地下を通る案について、大雨など自然災害雨が多く利用への不安がある。

○ラウンドアバウトの改修について

- ・ラウンドアバウト沿いにできたビルも地下駐車場を利用できることを前提に入居したテナントもあり、出入口がなくなっては困る人もいる。

○その他

- ・駅への送迎スペースをつくるなど、地下駐車場を活用することを考えてほしい。
- ・真清田神社への方向を示す目立つ案内板を出すことはすぐにでもできると思う。
- ・銀座通りの改築で莫大な予算を使うのではなく、本町通りへの投資に集中してはどうか。

(アドバイザー)

- ・道路の取り扱いについて、周辺住民からは「現状のままでよい」という意見が多く出た一方で、子育て世代からは「ベビーカーを引いて歩ける広さが必要だ」や「自転車が危ない」という声もあった。どの意見もそれぞれの立場から見れば正当なもの。その意見を説得するのではなく、皆さんの意見をしっかりと聞き、最終的に行政や政治の判断によって事業実施が決定される流れになる。
- ・事業実施が決定してから、計画や設計、実際に工事着手し完了するまで10年程度かかる。また、国の補助金を使って整備した場合、どのような内容でも整備後に最低でも10年間は変更を加えることができない。そのため、いま議論している内容は20年後の未来を見据えなければならない。
- ・若者や子育て世代がこのまちを出たとしてもいずれ戻りたいと思えるような、まちの将来を担う子供たちが育つ環境を整えておく必要がある。皆さんにはぜひ、20年後を見据え、どのようにまちを作り上げていくかを考えていただき、今後も意見をいただきたい。

6. まとめ

- ・車社会である一宮では、車を前提としたアクセスで過ごしやすいまちなかが必要である。
- ・一方で、子育て世代は広い歩道が必要であると感じるなど、立場が変われば必要な道路形状は変わる。
- ・千歳通の通行止めや銀座通りの歩行者空間拡大は大きい影響があるため、引き続き、市民や周辺事業者の意見を聴きながら進める必要がある。
- ・今後、一宮市で育った子どもが一宮市にずっと住みたいと思えるよう、20年後の未来のことを見据えてまちづくりを行う必要がある。